

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立向台小学校

1 学校教育目標

新しい時代を創造する 心豊かで たくましい児童の育成

2 本年度の重点化された具体的な目標

- 「学び合い高め合う」力をつけるための教育活動の展開
- 「心豊かで自分も相手も大切に」心を育む教育活動の推進
- 「心身の健康(体力の向上とレジリエンス)」を高めるための教育の推進
- 特別支援教育の充実
- 教職員の資質・能力の向上
- 安全安心の学校づくり
- 学校支援地域本部事業の推進と地域・家庭との連携

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程 学習指導	学校は、わかりやすい授業を行い、児童の学力向上に努めている。	保護者の肯定的評価は、前後期ともに約94%であった。授業に一生懸命取り組んでいると肯定的に回答した児童が85%から92%に向上した。	A	重点的に取り組む目標と手立てを設定(R8は総合、国語)することで、ゴールを明確化し、チームとして一体的に校内研修等に取り組む。
	学校は、児童の健康や体力の向上に努めている。	保護者の肯定的評価が83%から86%に向上した。進んで運動していると回答した児童が前後期ともに87%と高水準を維持した。	A	今後もこの結果を維持、向上できるよう、学校評価や体力テストの結果等をもとに、既存の体育的行事や体育科の授業の改善を図る。
生徒指導	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	悩み相談に関する肯定的評価が、保護者は86%だったのに対して児童が66%であった。また、前期の結果(74%)よりも低下した。	B	相談窓口の紹介・啓発や担任との時間の確保など、児童が相談しやすい環境整備に努めることで、いじめの早期発見または予防できる体制を強化する。
保護者・地域との連携	学校は、保護者や地域と協力して、児童の健全育成に努めている。	保護者の肯定的評価が94%から98%に向上した。家庭・地域に感謝していると肯定的に回答した児童が93%であった。	A	PTAとの連携・協力をより一層大切にすることや学校支援地域本部事業の活用を図ることで、この高い水準を維持できるようにする。
	学校は、児童や保護者が相談したことに対して、適切に対応している。	保護者の肯定的評価が92%から93%に向上した。また「教師は一人一人の児童を大切にしている」と肯定的に回答した児童が93%であった。	A	児童や保護者と良好な信頼関係を今後も継続・充実できるように、児童・保護者の声をしっかり聞ける体制や時間をつくっていく。

4 自己評価の結果の分析

教育課程・学習指導、保護者・地域との連携の2分野については、上記評価の指標に記載した通り、保護者や児童から高い肯定的評価を得られたことから、一定の成果を上げられたと考える。

特に、学力向上については、児童の評価が前期に比べ後期の方が高かったことから、今年度取り組んだ国語科の校内研究が向上の要因になったと考える。研究主任を中心に、全員で取り組める明確な目標の設定や、進捗状況の定期的な報告会など、研究の進め方を工夫したことが向上につながった。

また、保護者や地域との連携については、保護者からの高評価(高い数値、かつ前後期で向上している)が得られただけでなく、児童の評価も高かったことが大きな成果と言える。学校が保護者・地域との連携に努めたことで、児童の地域に感謝する気持ちを醸成できたことは、本校の特色として、今後も大切にしていきたい。今年度は、学校支援ボランティア(学校支援地域本部事業)の組織づくり等に取り組んだので、今後もその充実化を図り、学校と保護者・地域の連携・協力のより良い体制を模索していきたい。

生徒指導分野については、相談のしやすさという指標についての児童の評価で課題が見られた。教師は一人一人の児童を大切にしているという指標では、高い評価を得られたことから、教職員と児童との信頼関係が課題の要因とは考えにくい。児童がどのように感じ・考えているのか把握できるようにし、それに合った教育相談のあり方を模索していきたい。